

## 2. 収蔵館

### 平面計画

#### □効率性に配慮した平面計画

- 収蔵館は建物中央に通路と前室を設け、それらを挟み込むように諸室を計画し、スタッフの効率的な作業及び搬出入動線に配慮した平面計画とする。

#### □来館者が気軽に見学できる整理室

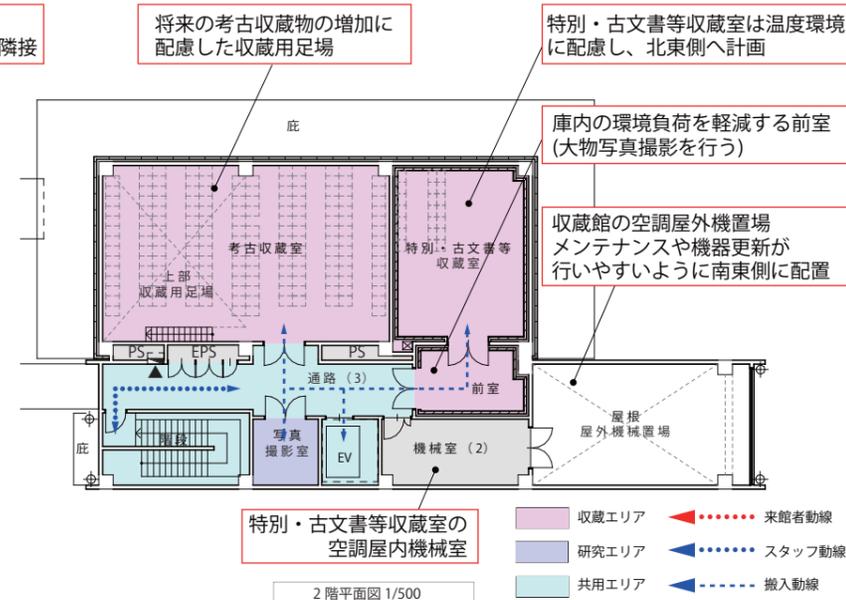
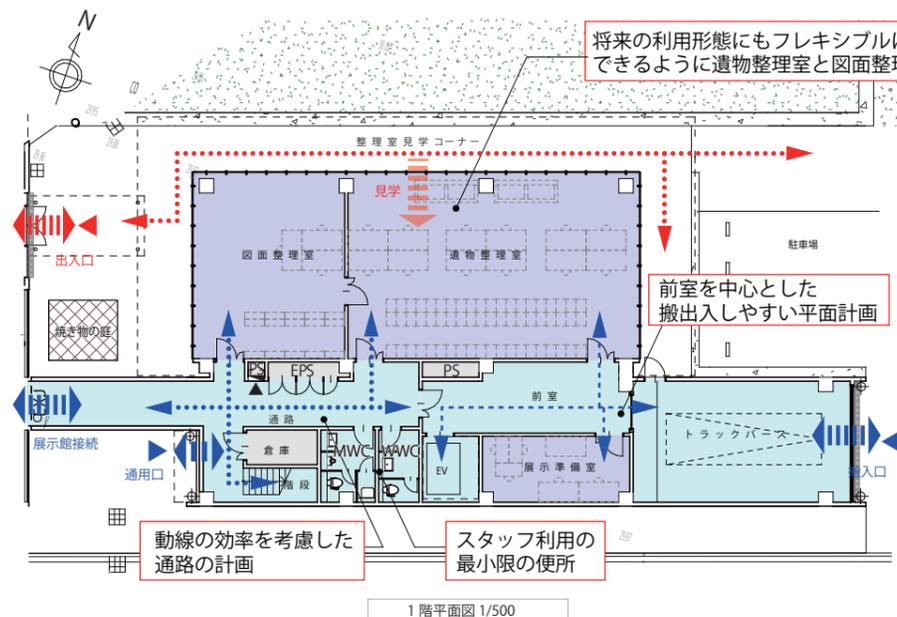
- 整理室は作業しやすい環境として、北からの安定した自然光が入る部屋として計画する。整理室は中庭に面した計画とすることで、整理室見学コーナーを通る来館者が抵抗無く作業風景を見学できる計画とする。

#### □安全な搬出入

- 建物東側にはトラックバースを設け、美術品の搬出入時の安全性に配慮した計画とする。また、展示館とは屋内通路で接続することで、より安全に搬入できる計画とする。

#### □収蔵環境に配慮した平面配置

- 2階収蔵室は収蔵環境に配慮し、収蔵館の北側に配置する。特別・古文書等収蔵室は、より収蔵環境のよい北東の位置に計画する。環境負荷を受けやすい南側は階段や機械室等で構成することで、収蔵室への環境負荷軽減に配慮する。



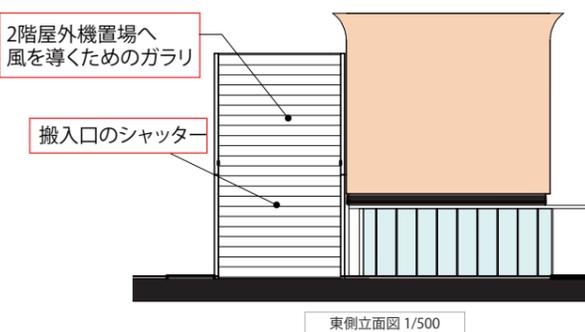
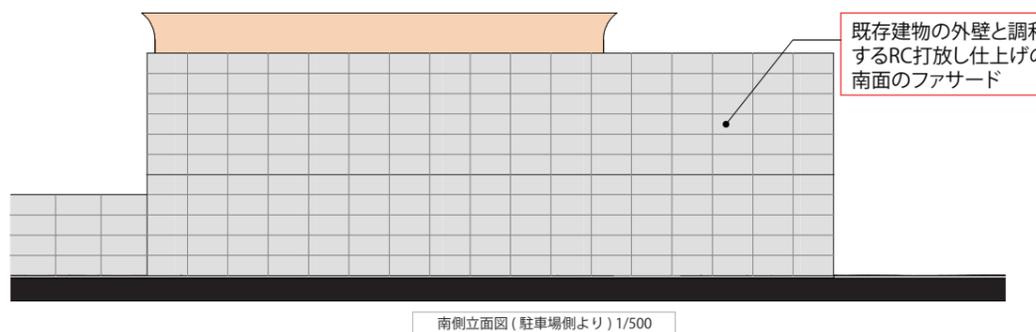
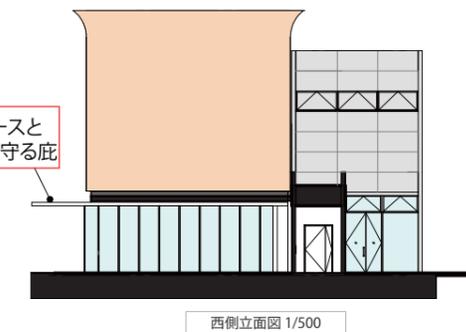
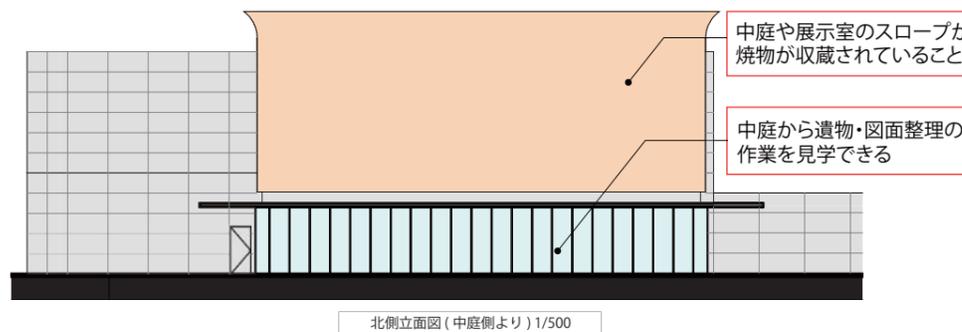
### 立面計画 (収蔵館)

#### □既存と調和する外観

- 収蔵館南側は既存建物（展示館）との外観調和に配慮し RC 打放しとして計画する。
- 収蔵館の1階の中庭に面した部分は、ガラスを設け、整理室の見学を行えるとともに、展示館の全面ガラスの表情と調和する計画とする。

#### □収蔵館としての象徴的な外観

- 収蔵館の2階収蔵室周りは、焼物（タイル）仕上とし、収蔵室内に歴史的価値のある焼き物が守られていることを象徴する外観とする。



### 断面計画

#### □適切な諸室機能を確保する断面計画

- 作業室においてはスタッフの快適性に配慮し、天井高さ3mを基本とする。
- 考古収蔵室は将来の収蔵品の増加に配慮し天井高さ5mとして計画する。
- 特別・古文書収蔵室は万が一の屋根からの漏水に備え、スラブ下に吊板を設ける工夫を行う。
- 便所の下部等は給排水衛生設備・電気設備配管のメンテナンス・更新性に配慮しピットを計画する。

#### □周辺環境に調和する断面計画

- 収蔵館の最高高さは既存建物（展示館）との調和に配慮し、展示館の高さ以下として計画する。
- 南面の近隣住宅への圧迫感に配慮し、南側を北側より低く計画する。

